

近現代文学—小説

定価 本体 5,500 円+税
A5 上製・528 頁予定
近代文学研究叢刊 65
2018 年 2 月刊行予定

遠藤周作論

長濱拓磨

ながはま・たくま 一九六七年、鹿児島県生まれ。
神戸大学大学院博士課程後期課程単位取得退学。博士(文学)。現在、京都外国語大学教授。
遠藤周作学会運営委員、日本キリスト教文学会関西支部運営委員、同会役員。共著に『作品論 遠藤周作』(双文社出版、二〇〇〇年)ほか。

「海と毒薬」「沈黙」「侍」「深い河」……
キリスト教文学に圧倒的な一時代を築き、
根強い人気をほこる作家・遠藤周作の文学を
「歴史小説」の視点から見直す。

「手記」と「トポス」、
『沈黙』に引用された歴史資料、
遠藤文学における
小西行長、〈ペドロ岐部〉など
様々な角度から
「歴史小説」にアプローチ。

遠藤周作研究
参考文献目録
(1947-2016)
収載



「歴史小説」を視座として

序論

第一部 「歴史小説」への序章―「トポス」をめぐる「手記」―

一 遠藤周作初期作品のエクリチュール―「手記」をめぐる―

二 遠藤周作論―〈劇〉を生成するトポス―

三 「黄色い人」論―逆説的な「恩寵の世界」の提示―

四 「海と毒薬」論―「トポス」をめぐる「手記」―

第二部 「歴史小説」―「切支丹物」の世界―

一 「弱者」の形象―二つの系譜をめぐる―

二 遠藤文学における〈ペドロ岐部〉(一)

―『留学』『沈黙』を中心として―

三 『沈黙』論―引用の織物―

四 遠藤文学における小西行長(二)

―「ユリアとよぶ女」を中心として―

第三部 「歴史小説」―「評伝」の世界―

一 遠藤文学における小西行長(一)―『鉄の首枷 小西行長伝』―

二 遠藤文学における〈ペドロ岐部〉(二)

―『メナム川の日本人』から『王国への道』まで―

三 『侍』論(一)―ベラスコの視点をめぐって―

四 『侍』論(二)―フィクションの内実について―

第四部 「歴史小説」―「歴史群像」の世界―

一 「女の一生」論―多層的な二項対立の世界―

二 遠藤文学における小西行長(三)―『宿敵』―

三 「人間」を追求する歴史小説

―山本周五郎『赤ひげ診療譚』と遠藤周作『王の挽歌』―

四 『王の挽歌』論―「キリシタン文学」の可能性―

五 遠藤文学における〈ペドロ岐部〉(三)―『女』を中心として―

結論

●目次●
遠藤周作研究参考文献目録(単行本/雑誌特集/作品別論文)
索引(人名・書名・事項)

注文書	貴店番線印	『遠藤周作論—歴史小説を視座として—』 定価 本体 5,500 円+税 ISBN978-4-7576-0865-8	冊	図書出版 和泉書院 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町7-6 TEL 06-6771-1467 FAX 06-6771-1508
		お名前・ご住所・TEL		